

結女だより



2025年2月1日発行

©企業組合ワーカーズ・コレクティブ結女

西東京市泉町3-15-28

電話042-425-3800

《インフルエンザの 予防について》

毎年秋から冬にかけては、インフルエンザの流行シーズンです。特に今年は患者数が多いので注意しましょう。

インフルエンザは高熱や関節の痛みなどを伴い、人によっては重症化するおそれもあります。感染を防ぐには、原因となるウイルスを体内に侵入させないことや周囲にうつさないようにすることが重要です。

一人ひとりが「かからない」「うつさない」対策を実践しましょう。

・湿度をたもつ

(ウイルスは低温低湿を好みます。湿度50%～以上だと効果的です。)

・水分をとる。栄養、睡眠を充分に。

(体力をつけ、抵抗力を高めましょう。)

・着るものの調整→空気をはらむ肌着の着用など。

・うがい手洗いを入念に。

・かかったら早めの対処を。

咳や鼻が続いたり、急に高い熱が出たらすぐに医療機関を受診しましょう。

《二月 温かな冬》

年末、年明けから暖かい気候の穏やかな日が続きました。雨が少なく乾燥が進み、火災のニュースも多かったように思います。予報によると、2月も温かな日が多いようです。これも気候温暖化の影響でしょうか。

先日 NHK の番組で、ヒマラヤに位置するブータンで行われた山岳レース(スノーマンレース)を見ました。

走りながら地球と対峙するといった特別な狙いのある、最も過酷なレースです。ブータンにはいくつかの氷河があるのですが、3年前その一つが大決壊し村が流されたそうです。まだ危険な状態の大氷河が3つもあるそうです。山岳氷河の融解です。

「タンザニアでは、『マジ・ニ・ウハイ』、『水は命』という言葉がある。今その水が破壊をもたらしている。氷の溶ける速度が遅くなり水が命で有り続けますように。」タンザニア選手の言葉が心に残ります。温暖化を進めている、私たちのすべきことを考えました。

【ひとことコラム】

お昼ご飯を食べながら出てきた話を
少しご紹介します

節分は一般的に「立春の前日」のことを指します。

もともと、立春は一年のはじまりとされていたため、節分は今でいう大晦日として盛大にお祝いされていました。節分には、季節の境目に悪いものが寄ってこないよう、豆まきをしたりイワシの頭を飾ったりして「鬼」を祓う風習があるほか、最近では一年の健康と幸福を願って「恵方巻」を食べる風習も広がっていますね。

節分は立春に合わせて日付が多少前後するので、2025年の節分は2月2日（日）です。



節分に飲む福茶は、お正月の大福茶（梅干し・塩昆布に湯を注ぐ）の節分版で、そこに香ばしく炒った大豆を3粒入れます。3は吉数で縁起がよく、年の数だけ豆を食べる代わりに。心身の邪気を払って、福を呼びます。



2月23日は天皇陛誕生日です。

「天皇誕生日」は、昭和23年の祝日法の制定当初から設けられている国民の祝日です。

制定当初の「天皇誕生日」は、昭和天皇の誕生日である4月29日でした。皇位継承に伴い、平成元年2月に祝日法が改正され、12月23日に改められました。また、先のお代替わりの際には、天皇の退位等に関する皇室典範特例法（平成29年法律第63号）の附則によって祝日法が改正され、現在の2月23日になりました。

天皇誕生日には、毎年、天皇陛下が祝賀を受けられる行事が行われています。

初午（はつうま）とは、一般的に、初午の日に行われるお祭りや風習をさします。

初午ということばは、2月最初の「午（うま）の日」からきています。和銅4年（711年）2月初午の日に稲荷大神が稲荷山に鎮座したゆかりの日なので、その年の2月最初の午の日を初午と呼びます。初午の日にちは、その年ごとに変わります。初午には、全国各地の稲荷神社で「初午祭」というお祭りが行われます。

春の兆しが感じられる初午に、その年の豊作を願って稲荷神社を参拝する習慣が現在も続いています。